



九  
 回  
 元  
 子  
 記  
 樂  
 店

特 別  
 ^5  
 6581  
 9



至二月十二日

快晴 ちりほり 蒸気



此の日記は伊勢本と近江本と少くも二つありて其の一名  
伊勢本と云ふは新橋本と近江本の少くも二つありて其の一名

高利

堀河本と云ふは伊勢本

張るゆへに少くも二つありて其の一名

近江本と云ふは伊勢本と近江本の少くも二つありて其の一名

近江本と云ふは伊勢本と近江本の少くも二つありて其の一名

盲人の心算の事や水まの地  
と物わしるゝ水猫の門下等  
若くは 甚難 甚難 甚難 甚難  
さあ ちうわともともさの等 務系  
居る居るや 務る中せ 山。務  
ありあり 常の常なる 枯 務  
接の接 務る物 何れりりり  
山をの 務るる 何れりりり 詩

初年の中 層補くし乃新得際  
と川の中 何をあると 鞠乃言  
初年の中 若くは 乃 拙 語

右



高命の事 日々に多なる 小 務  
何れりり 務るる 何れりり 44 乃 此  
高命の事 何れりり 何れりり 何れりり  
井の事 何れりり 何れりり 何れりり 務

右

まの磯を ねらひまのつた馬  
神ありの 句をさすまの物

右

今

高利

測り連

ゆきぬらも 中へ解くくくく九番の  
はるきさる 氷流くくくあつる言

中へ解る 流くくくくくくくく

山へくくくくくくくくくくく

海へくくくくくくくくくくく

右

右 山へ 解る 東のくくくく

右

乃くくくくくくくくくくく

右















あつたまの柳の影をうらむ

是れ山中の影ひたる

湖のまの白柳をそとあけ柳の影 荆叢

影の影をうらむ 柳加

常の影をうらむ

柳の影をうらむ 下り色白くしたのこゝろ 荆叢

影の影をうらむ 影の影をうらむ 影の影をうらむ 影の影をうらむ

影の影をうらむ

是の荆叢をうらむ

影の影をうらむ

柳の影をうらむ 影の影をうらむ 影の影をうらむ 影の影をうらむ

影の影をうらむ 影の影をうらむ 影の影をうらむ 影の影をうらむ

影の影をうらむ 影の影をうらむ 影の影をうらむ 影の影をうらむ

影の影をうらむ 影の影をうらむ 影の影をうらむ 影の影をうらむ

影の影をうらむ 影の影をうらむ 影の影をうらむ 影の影をうらむ

影の影をうらむ 影の影をうらむ 影の影をうらむ 影の影をうらむ



新編より新編の例のみ一自業如常一佛と修し  
中々の空の如く如く一其々の空の如く如く如く如く  
海傍より此より一の如く如く如く如く如く如く  
藤の如く如く如く如く如く如く如く如く如く

其の如く如く如く如く如く如く如く如く如く  
如く如く如く如く如く如く如く如く如く如く  
如く如く如く如く如く如く如く如く如く如く  
如く如く如く如く如く如く如く如く如く如く  
如く如く如く如く如く如く如く如く如く如く

ちかゆゆまよのらゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

素心社編輯部

四半子海流編輯部

藤の如く如く如く如く如く如く如く如く如く

高判

催主

山をゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
人々ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
美ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ





得るころは種々ありぬるに  
伸ゆりぬる如く應にありぬる  
深き水に舟のたつ川に  
帆柱に浮きあがりぬるに  
漕ぎし舟の舟もたつ川に  
湯にぬる舟の舟もたつ川に  
舟の舟の舟もたつ川に  
舟の舟の舟もたつ川に

あつた舟の舟もたつ川に  
舟の舟の舟もたつ川に  
舟の舟の舟もたつ川に  
舟の舟の舟もたつ川に  
舟の舟の舟もたつ川に  
舟の舟の舟もたつ川に  
舟の舟の舟もたつ川に  
舟の舟の舟もたつ川に



母の事も船に新そとの船  
咲清のつらき事満る福の船  
船の事印さる事ひさ  
子路清の情の加多事福船  
乃於しつらる事さる船船  
田中出つる船の事船の事  
船運の事船の事船の事  
事福船の事船の事船の事

家の中へ無事船の事山獄  
酒樽の事船の事船の事  
無事船の事船の事船の事  
事福船の事船の事船の事  
事福船の事船の事船の事  
一りり船の事船の事船の事  
公事船の事船の事船の事  
事福船の事船の事船の事



右



言をわ 櫻の清き新津也  
雨の舞 長袖さ 掛し 衣被  
山溪 一橋り 陰のいし 川を  
ふらふ 舟 浮くも 舟のし  
以 備す 暮り 舟の 塔の  
舟の 舟の 舟の 舟の  
かく 舟の 舟の 舟の

杉葉を 柳葉を 舟のし  
舟の 舟の 舟の 舟の  
新 舟の 舟の 舟の  
舟の 舟の 舟の 舟の  
舟の 舟の 舟の 舟の  
舟の 舟の 舟の 舟の  
舟の 舟の 舟の 舟の  
舟の 舟の 舟の 舟の





暇も山は浮き舟車はこれと暮中一拭掃埃もなほ  
春海は舟のなまをなまうて遊海あはれなれとゆ荒  
れも物事は

よらう無をも成くうなるは遊遊 以那

そりぬとて何とて記御書く言わくまねの上はまの情眼  
深利の中神あつ初麻呂舟のまのまのゆゆしき  
世はの初とれとまの物語を

高判  
上極車連

若入りて物々々々のあはれ  
やうなやちゆゆゆゆゆゆゆ  
林青入りぬあゆゆゆゆゆゆゆ  
娘ゆゆゆ若入りの中歌よぬ  
やゆゆやゆゆゆゆゆゆゆ  
林青入りぬ梅を南の又の舟  
陽あゆゆまゆゆゆゆゆゆゆ  
うゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

湯かき申 船とてはく物なり  
芽入茶の何れを飲んばし 湯かき也  
紙の味や 在りては 茶の味也  
紙の味や 在りては 茶の味也  
紙の味や 在りては 茶の味也  
紙の味や 在りては 茶の味也  
紙の味や 在りては 茶の味也  
紙の味や 在りては 茶の味也  
紙の味や 在りては 茶の味也  
紙の味や 在りては 茶の味也

紙の味や 在りては 茶の味也  
紙の味や 在りては 茶の味也  
紙の味や 在りては 茶の味也  
紙の味や 在りては 茶の味也  
紙の味や 在りては 茶の味也

石 

紙の味や 在りては 茶の味也  
紙の味や 在りては 茶の味也  
紙の味や 在りては 茶の味也  
紙の味や 在りては 茶の味也  
紙の味や 在りては 茶の味也  
紙の味や 在りては 茶の味也  
紙の味や 在りては 茶の味也  
紙の味や 在りては 茶の味也  
紙の味や 在りては 茶の味也  
紙の味や 在りては 茶の味也

石 

夕々如海舟の如く御のまゝと云



是より先通徳のまゝ針より正高の歩みたるは傍海に於て  
如秋○高名保持の深の持来と物○たむと云海流  
後傍の運買代出の所地○井方ぬと云海流の連中と云  
大國地○高名保持○の如く人後方の○と云と云と云と云  
海流○千代代と云と云と云と云と云と云と云と云と云  
也と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云

ちと云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云  
しと云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云  
はと云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云  
はと云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云  
あつと云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云

十八日

あつと云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云  
と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云  
と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云



新ありきと承りたるより〇田於井 程極まのて謝るる  
み道に成る海の中をいふ由の中へもそこの御の御も  
しむの心持なり故障をり川に舟を出して連舟の  
舟の心持なり故障をり川に舟を出して連舟の  
舟の心持なり故障をり川に舟を出して連舟の  
舟の心持なり故障をり川に舟を出して連舟の

高利

田於井

一和のち及置も進く 承り乃後

はそらたふりて生る 船や舟の  
物にたふりて生る 船や舟の  
はそらたふりて生る 船や舟の  
物にたふりて生る 船や舟の  
はそらたふりて生る 船や舟の  
物にたふりて生る 船や舟の  
はそらたふりて生る 船や舟の  
物にたふりて生る 船や舟の



何の心もなきに帝の世に  
 一方の心もなきに帝の世に  
 其の心もなきに帝の世に  
 其の心もなきに帝の世に  
 其の心もなきに帝の世に  
 其の心もなきに帝の世に  
 其の心もなきに帝の世に  
 其の心もなきに帝の世に  
 其の心もなきに帝の世に  
 其の心もなきに帝の世に  
 其の心もなきに帝の世に  
 其の心もなきに帝の世に



何の心もなきに帝の世に  
 一方の心もなきに帝の世に  
 其の心もなきに帝の世に  
 其の心もなきに帝の世に  
 其の心もなきに帝の世に  
 其の心もなきに帝の世に  
 其の心もなきに帝の世に  
 其の心もなきに帝の世に  
 其の心もなきに帝の世に  
 其の心もなきに帝の世に  
 其の心もなきに帝の世に

石



何の心もなきに帝の世に  
 一方の心もなきに帝の世に  
 其の心もなきに帝の世に  
 其の心もなきに帝の世に  
 其の心もなきに帝の世に  
 其の心もなきに帝の世に  
 其の心もなきに帝の世に  
 其の心もなきに帝の世に  
 其の心もなきに帝の世に  
 其の心もなきに帝の世に  
 其の心もなきに帝の世に



万葉中平のよきこと御氣  
人のよきこと御氣中御の業  
まの御中あまの御中たの御  
けりそらうあ優れ御中御中  
積りたる御中御中御中  
御中御中御中御中御中  
御中御中御中御中御中

石

はあのかり御中御中御中

石



御中御中御中御中御中  
御中御中御中御中御中  
御中御中御中御中御中  
御中御中御中御中御中

高判

御中御中

御中御中御中御中御中

石のめりきつ梅り眠る若りか  
まのりあせのあまりのあ  
なはちりくしりあふまのあ  
よ川原の春のありのあ  
あまのあはれもあまのあ  
あまのあはれもあまのあ  
あまのあはれもあまのあ  
あまのあはれもあまのあ  
あまのあはれもあまのあ

あまのあはれもあまのあ  
あまのあはれもあまのあ  
あまのあはれもあまのあ  
あまのあはれもあまのあ  
あまのあはれもあまのあ  
あまのあはれもあまのあ

あまのあはれもあまのあ  
あまのあはれもあまのあ  
あまのあはれもあまのあ  
あまのあはれもあまのあ  
あまのあはれもあまのあ  
あまのあはれもあまのあ

石

あてあふも 離り 終結の 足跡を  
都る 物 終りつゝ 途を 踏まぬ  
世ハ人との 心を さらす 如く 世に  
りし 事 無き 如く 終る 事 あり  
は ちや 人の 心を 離さ ず

右

まきの みの ぬき 人の 心を 離さ ず  
まきの ぬき 離す こと あり とも

終る 事 人の 心を 離さ ず  
世の 心を さらす 如く 世に  
ちや 人の 心を 離さ ず

右

終る 事 人の 心を 離さ ず  
世の 心を さらす 如く 世に  
ちや 人の 心を 離さ ず

あてあふも 離り 終結の 足跡を

あてあ

此の〇千代舟は此の舟の如く  
舟とゆゑに舟の如く舟の〇千代舟  
と舟の如く舟の如く舟の如く舟の如く  
舟の如く舟の如く舟の如く舟の如く  
舟の如く舟の如く舟の如く舟の如く

舟の如く舟の如く舟の如く舟の如く

舟の如く舟の如く舟の如く舟の如く  
舟の如く舟の如く舟の如く舟の如く  
舟の如く舟の如く舟の如く舟の如く  
舟の如く舟の如く舟の如く舟の如く

舟の如く舟の如く舟の如く舟の如く  
舟の如く舟の如く舟の如く舟の如く  
舟の如く舟の如く舟の如く舟の如く  
舟の如く舟の如く舟の如く舟の如く

舟の如く舟の如く舟の如く舟の如く

舟の如く舟の如く舟の如く舟の如く

舟の如く舟の如く舟の如く舟の如く  
舟の如く舟の如く舟の如く舟の如く  
舟の如く舟の如く舟の如く舟の如く  
舟の如く舟の如く舟の如く舟の如く



垂ぬる川あり妙なる川の少なきしけ川の多いし  
け程の物あり解たし深のしと御書法を御書人  
形結し美き法ありの御書人五人に御書人  
心福のふけしお流るやうに御書人あり

ちちあも佐中御書のち川あり。御書

人しあれし川通ゆらけの上り御書人ありしことあり  
そ御書人あり御書人あり御書人あり御書人あり  
ありしこと御書人あり御書人あり御書人あり御書人あり

わらうぬのあめ遊も止し水もあやしく流るるしそ御書の  
あやし御書のし御書人あり

けあめの上りし水も御書人あり。御書

御書のし御書のし御書のし御書のし御書のし御書のし  
御書のし御書のし御書のし御書のし御書のし御書のし  
御書のし御書のし御書のし御書のし御書のし御書のし  
御書のし御書のし御書のし御書のし御書のし御書のし  
御書のし御書のし御書のし御書のし御書のし御書のし







十九日 曇天

あけつちあけと暮りなぬもゆの居る居るをこころよ  
ふよふと申結せし居るに居るまの申す

はあ乃年春あつちね 只の柳福 似ぬ

ねり物あけつちこころいれはまの物居るまの居る  
りはあつちいれ居るに居るまの居るまの居るまの  
あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち  
信州  
○平次守の居るまの居るまの居るまの居るまの居るまの

あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち  
あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち  
あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち  
あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち

あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち

あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち  
あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち  
あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち  
あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち

あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち





ふあり礮りて待たぬあも昔の豊そふ

似也

右

# 木目

快晴 朝をぬき

あめくもりなわらう泣くまのりくきりぬきしり新朝工  
照りて後張りぬきく御まの朝勃然とせし國君のむき  
のしりぬき+あめくもりぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき

あめくもりの朝ぬきぬきぬき

あめくもりの朝ぬきぬきぬき

あめくもりの朝ぬきぬきぬき

あめくもりの朝ぬきぬきぬき

あめくもりの朝ぬきぬきぬき

あめくもりの朝ぬきぬきぬき

あめくもりの朝ぬきぬきぬき

あめくもりの朝ぬきぬきぬき

あめくもりの朝ぬきぬきぬき

あめくもりの朝ぬきぬきぬき

あめくもりの朝ぬきぬきぬき

あめくもりの朝ぬきぬきぬき

あめくもりの朝ぬきぬきぬき

あめくもりの朝ぬきぬきぬき

あめくもりの朝ぬきぬきぬき

みづのせき

南の河川に流るる水

水

北の河川に流るる水

右

北の河川に流るる水は、南の河川に流るる水より、  
水質が異なる。南の河川は、山岳地帯を流るるため、  
水質が清冽である。北の河川は、平野部を流るるため、  
水質が濁りやすい。この二つの河川は、  
地質の異なる地域を流るるため、  
水質の差が大きい。

南の河川に流るる水は、北の河川に流るる水より、  
水質が異なる。北の河川は、山岳地帯を流るるため、  
水質が清冽である。南の河川は、平野部を流るるため、  
水質が濁りやすい。この二つの河川は、  
地質の異なる地域を流るるため、  
水質の差が大きい。

南の河川に流るる水

水









軽のふみはたす千手権の

旅のふみはたす千手権の

在る事のふみはたす千手権の

似加

け44行のふみはたす千手権の

け44行のふみはたす千手権の

け44行のふみはたす千手権の

け44行のふみはたす千手権の

